

6/21 木

核禁条約 核抑止力論克服へ議論 きょうから第1回締約国会議

約に参加していないことを
理由にオブザーバー参加を
見送りました。

【ウィーン＝島田峰隆】オーストリアの首都ウィーンで21～23日、核兵器禁止条約の第1回締約国会議が開かれます。ロシアによるウクライナ侵略が続くながら、禁止条約を力に核兵器使用の危険を乗り越えて、廃絶の歩みをどう具体的に進めらるのか、各国民政府や市民社会が議論します。

▼関連②(1)面

条約の締約国は19日現在62カ国です。国連によると、会議には署名だけ済ませた国や米国と軍事同盟関係にあるベルギー、オランダ、オーストラリアなど約30カ国がオブザーバー参加します。各国民議員や市民社会メンバーも参加します。

会議では核保有国が非核化を決断した際の核兵器廃

棄の道筋、期限や検証方法、れわれが進む道を「示す明確なメッセージになる」と述べました。日本共産党中央委員会亮などを話し合います。最終日に政治宣誓を探査する予定です。

会議議長を務めるオーストリア外務省のアレクサンダー・クメント軍縮局長は19日、会議が発する「最も重要なメッセージ」として

加します。

日本政府は核保有国が条

約(ジエト)を含めた多国間体制を補完するとの確認一を挙げました。

ロシアが核使用の威嚇を行なか、核抑止力論の克服が重要な焦点になります。クメント氏は政治宣言について、「最近の否定的な出来事へ懸念を表明し、わ